

第1回共創ワークショップ実施



図1 共創ワークショップのZoomメインルーム

8月1日(月)に、第1回目となる共創ワークショップを実施しました。

SSHのⅢ期の柱として「KITAcO-creation」を掲げており、今回は高大社の関係者が一緒になって、目指す人物像や取組みについて考える最初の機会になりました。

本校運営指導委員の先生方と教職員、さらに高校生も参加しました。

最初に新しく運営指導委員になられた4名の先生方から話題提供をしていただきました。

その中で、「高校生・大学生の段階で自分を確立し、芯を持って社会に

出て欲しい。」「思考力・問題解決能力が重要で、学びと成長を高大社と見据えて考えていく必要がある。」という意見が出されていました。また、これまでの日本の教育とは異なる事例として、データサイエンス学部や海外の取組みが紹介されました。

分科会では、高校生からも盛んに質問が出されていました。また、自分の色を見つけること、根拠を持って意見を述べること等が共通した話題となりました。

今回の取組みで課題研究の重要性を改めて確認することができました。

ワークショップの流れ

- (1)はじめに
- (2)話題提供
 - ①社会からの話題
 - ②大学からの話題
 - ③データサイエンスからの話題
 - ④海外大学からの話題
- (3)ラウンドテーブル・ディスカッション
ブレイクアウトルームを利用して、4分科会で次のとおり実施
 - ①チェックイン
 - ②「高校で育む資質・能力」をテーマにディスカッション
- ④振り返り
チャット機能を利用
- ⑤講評

ハイブリッド型ポスター発表会の機器 (2)

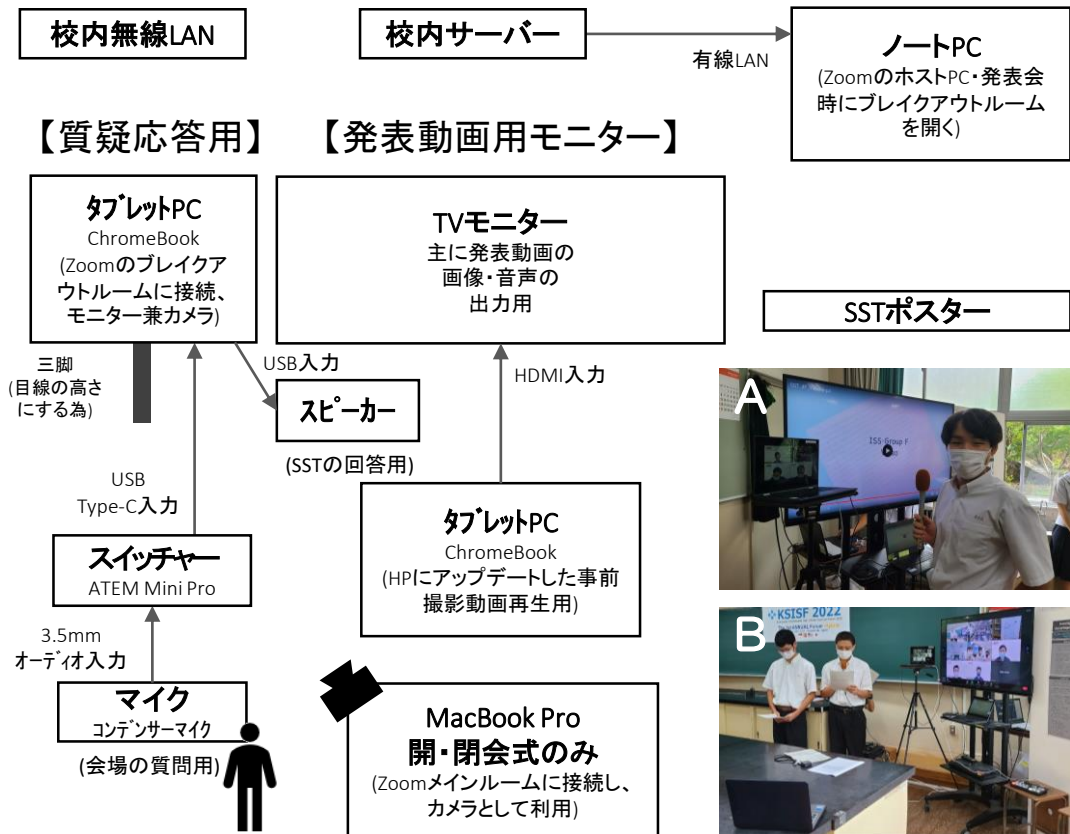


図2 メイン会場の配信用端末セットの配線図
(A) SSTとの質疑応答、(B) 開会式の様子

7月12日のハイブリッド型の生徒国際科学フォーラム(KSISF)では、各ポスターの前に配信用端末セットを設置し、本校生徒の発表を行いました(SSH NEWS 337号)。

シンガポールのSSTの発表では、メイン会場の配信用端末セット(図2)を利用して、発表及び質疑応答を行いました。

SSTの発表動画を予めKSISF専用HPにアップロードし、会場の発表時

間に合わせて、1・2年生のSSH生徒委員が動画の再生をしました。この動画はTVモニターに映し出されるようにしました。

その後、目線の高さにある質疑応答用タブレットPCでリアルタイムで、質疑応答を行いました。

SSTからは2班の発表があったため、2箇所と同様の配信セットを準備しました。

また、この配信セットは、開会式の際には、司会に

よる進行の配信や、海外からの参加者を映し出すためのモニターとして利用しました。

今回は、SSH生徒委員がSSTとの質疑応答の仲介役を担いましたが、次年度以降は、英語科2年生やSSH生徒委員を中心とした大会運営についても検討していきたいと考えています。

また、よりシンプルで効果的な配信のための工夫を重ねていきたいです。